

日本学術会議-RIETI シンポジウム

ダイバーシティ経営とワーク・ライフ・バランス

主催：日本学術会議（経済学委員会ワーク・ライフ・バランス研究分科会）、独立行政法人経済産業研究所
共催：慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター



樋口 美雄氏

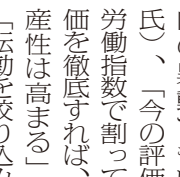


武石 恵美子氏

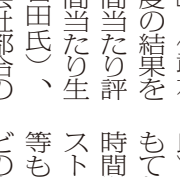


大石 亜希子氏

- モデレーター
日本学術会議連携会員/RIETIファカルティフェロー
慶應義塾大学商学部教授
- パネリスト
日本学術会議連携会員
法政大学キャリアデザイン学部教授
- 日本学術会議連携会員
千葉大学法政経学部教授
- 経済産業省経済産業政策局
経済社会政策室長
- 21世紀職業財団会長/日本航空社外取締役
キリンホールディングス社外監査役
- リクルートワークス研究所
機関誌 Works 編集長



武石 恵美子氏



大石 亜希子氏

樋口氏(モデレーター)
武石氏
大石氏

日本学術会議と経済産業研究所(RIETI)は3月22日、東京・六本木の日本学術会議講堂で「ダイバーシティ経営とワーク・ライフ・バランス」と題したシンポジウムを開いた。開会挨拶で矢野誠・同会議経済学委員会委員長は「女性活用に対する日本の取り組みは遅れている。社会制度や人々の意識、企業体制を変える必要がある」と指摘。中島厚志・RIETI理事長も「女性の就業率や管理職への登用は低い。日本の成長には多様性の実現が必要」と話し、専門家が議論を深めた。

第1部 研究報告

働き方改革および育児短時間規制の出生と就業への影響



永瀬 伸子氏

2012年から全企業に育児労働者の短時間勤務制が義務づけられ、就業女性の第1子出産と出産後の女性の就業継続の割合が大きく上がった。だが、第2子以降の出産には、特に就業

女性活躍推進と企業業績



山本 勲氏

女性活躍推進と企業業績の関係について企業を追跡したデータで検証すると、正社員女性の比率や管理職女性の比率が高い企業は、利益率が高くなる傾向があることが認められた。女性

ダイバーシティ経営が正規雇用女性の賃金に与える影響について



山口 一男氏

日本の男女賃金格差は大きい。私の実証分析では女性の社会進出を促すダイバーシティ経営には「性別にかかわらず社員

外資系企業の女性活用



児玉 直美氏

日本の外資系企業は、国内企業に比べて、女性が活躍している。古くからの外資系企業、外

第2部 パネルディスカッション

男女のキャリアとWLBー育児期の課題克服 個人のスタンス、企業のスタンス、社会のスタンス

働き方改革 必要

パネル討論では樋口氏が「女性の出産後の継続就業率は正規労働者では上昇傾向だが、非正規比率も高く、全体的にまだ期待されるほどには高くなっていない。労働・通勤時間が長い地域ほど出生率が低い。働き方改革は社会全体では進んでいないのが現状」と問題を提起した。

女性の多重役割と健康問題ーワーク・ファミリー・バランスの観点から



吉沢 豊予子氏

1990年以降、日本人女性はキャリアを形成した後、結婚し子育てしようとしてきた。だが、妊産力の低下、不妊治療などのアクセスが増え晩産化による弊害がわかってきた。201



藤澤 氏



岩田 氏



石原 氏

議論と問題提起を

人事評価・転勤制度については「成果の評価基準をつくりきれていない。長時間労働はマイナスという価値観に変えた企業もある。転勤の必要性も熟考すべき。働き方改革が必要」(大石氏)、「サービスの業は低賃金でおもてなしまで要求されるが、長時間労働の見直しにあたり、コストに見合ったサービスの水準等も検討すべき」(武石氏)などの意見があった。

企画・制作=日本経済新聞社 クロスメディア営業局



独立行政法人 経済産業研究所 http://www.rieti.go.jp

RIETIは、世界有数の政策シンクタンクとして、内外から高い評価を得ています。

本内容は要点を掲載しており、詳細は、後日、RIETI ホームページにて掲載する予定です。